

2024年の選挙と投票行動

一般社団法人Public Meets Innovation

はじめに

私たちは今、民主主義の転換点に生きている。

政治や選挙の風景が大きく変化した「選挙イヤー」2024年を経て、この夏には、政治の趨勢を左右する重要な選挙が控えている。

こうした中、Public Meets Innovationでは、今回で2回目となる「政治意識調査」を実施した。政治参加の動機、メディアの影響、制度への信頼などを多角的に分析し、私たち有権者が今、政治とどう向き合っているのか、そして今後どう向き合っていくべきかを明らかにする。

本レポートは、変化の只中にある私たち自身の意識を捉え直し、これからの日本における民主主義の再設計—Democracy 2.0—に向けた議論の出発点となることを目的としている。

エグゼクティブ・サマリー：揺らぐ安定と見通せぬ変化の狭間で

2024年の日本の有権者は、政治への閉塞感と制度への信頼の間に複雑なねじれを見せている。高齢層ほど投票行動は安定し、保守的な志向が強い一方、多くの国民は自らの政治的立場を明確に定置できず、政党の存在感は必ずしも大きくない。一部ターゲットを明確にすることにより新たな層の巻き込みに成功している政党もあるが、性別や年代など、属性によって政治への期待値は大きく異なっているのが実態だ。

一方で、メディア参照度や制度信頼度を見れば、前者では地上波テレビの影響力が全世代を通じて大きく、後者では法律や憲法の信頼度が高いことが伺える。新興メディアなど若年層を中心に新たな情報源が広がってはいるものの、全体的には、私たちはこれまで培ってきた制度的基盤のうえに何とか寄りかかりながら政治と向き合い続けているのである。

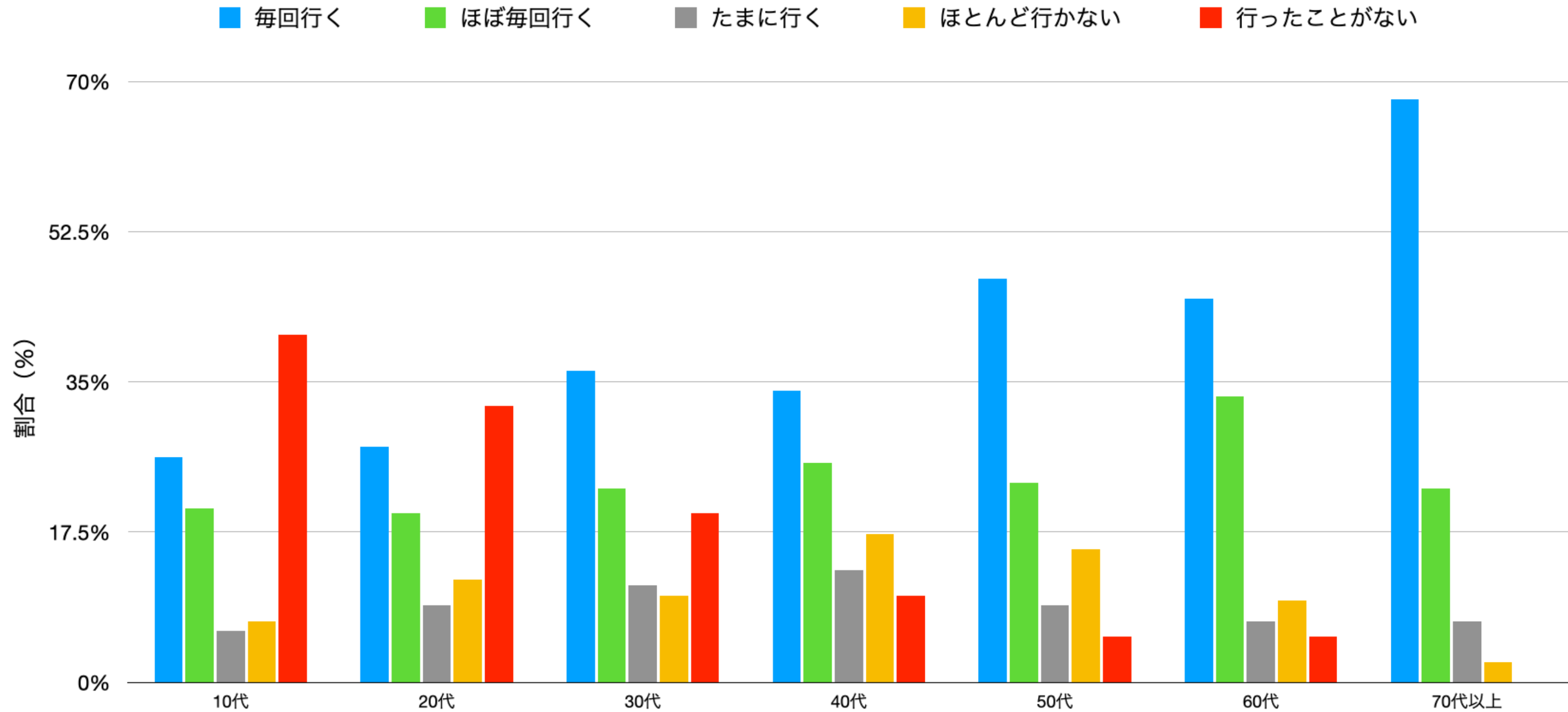
このような構造の上に成り立つ有権者の意識は、一見して多様で断片的に見えるものの、実は「変化への慎重な期待」という共通の地平に収れんしている。すなわち、政治に対する強い不満や失望がある一方で、制度自体を根底から否定するほどの急進的な態度には全体として傾いておらず、既存の枠組みの中で「どのように変えていけるか」を模索している。この傾向は、政党支持の流動性や投票時の重視項目、情報源に対する選別的な信頼に明瞭に表れている。

本レポートを通じて浮かび上がってきたのは、動揺しながらもなお安定性を保ち続ける既存の制度的基盤と、それに対峙する急進的な新興勢力との狭間で、模索と逡巡を繰り返す有権者の姿である。

1.投票率の動向

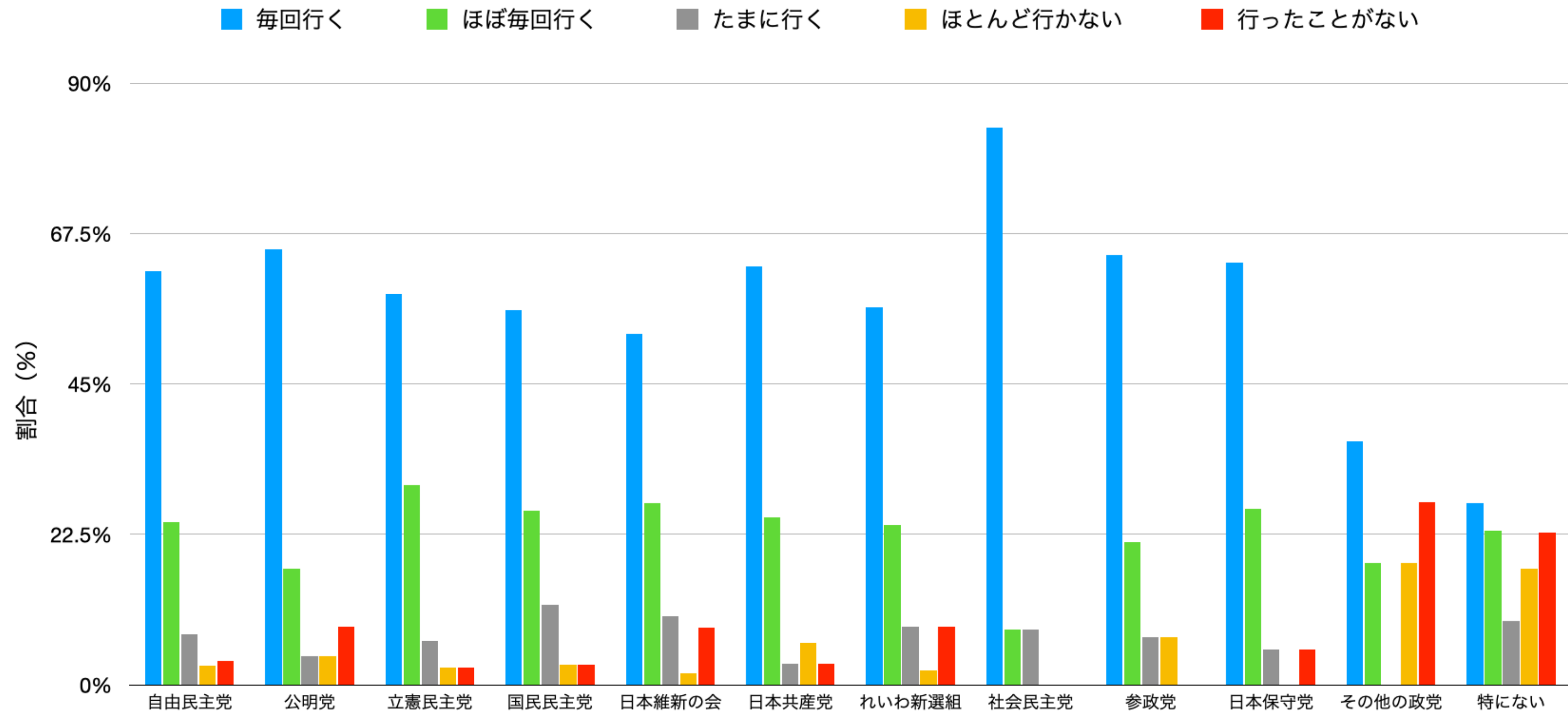
年代別・投票参加率

年代が高ければ高いほど、投票に行く割合は高い



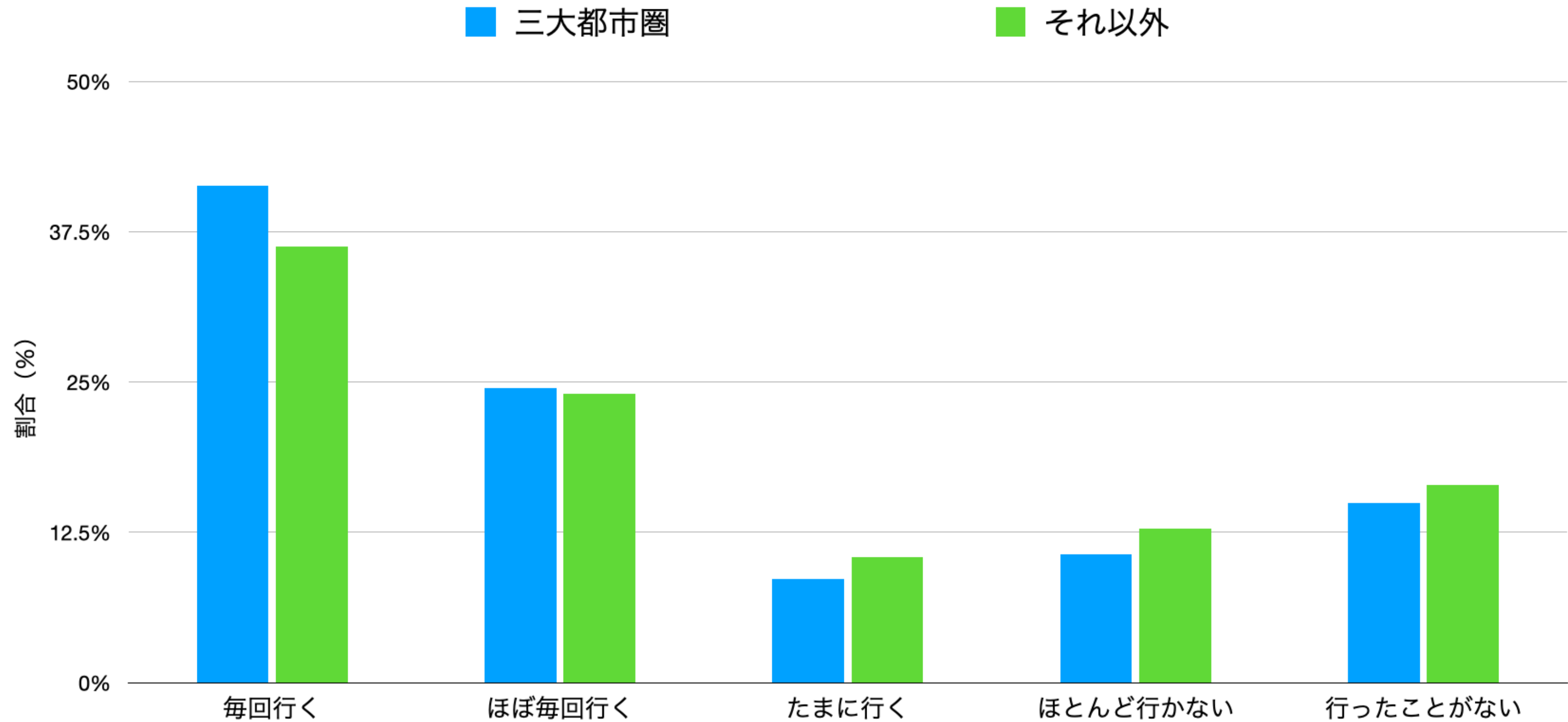
支持政党別・投票参加率

支持政党がある人ほど、投票に行く割合は高い



都市圏比較・投票参加率

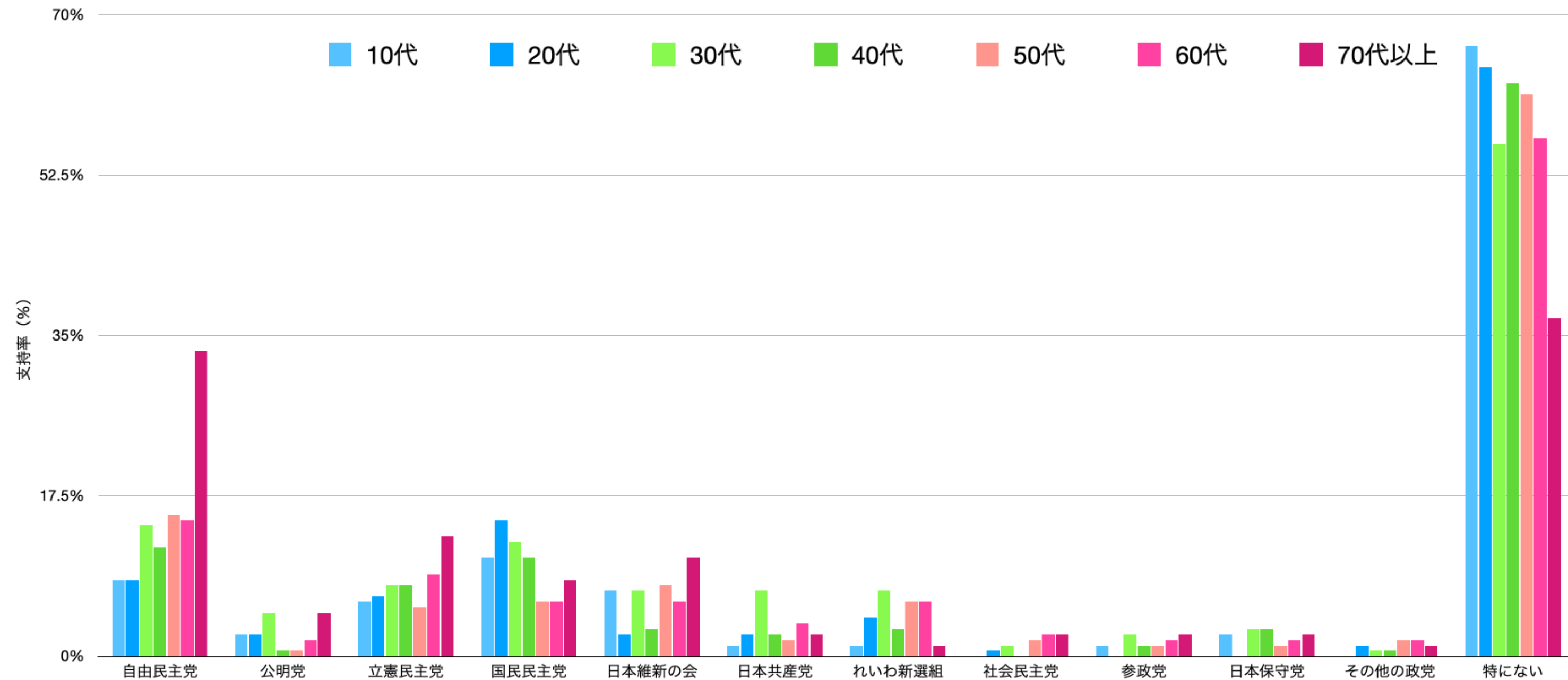
3大都市圏とそれ以外の地域で投票に行く頻度に大きな差はない



2. 支持政党の動向

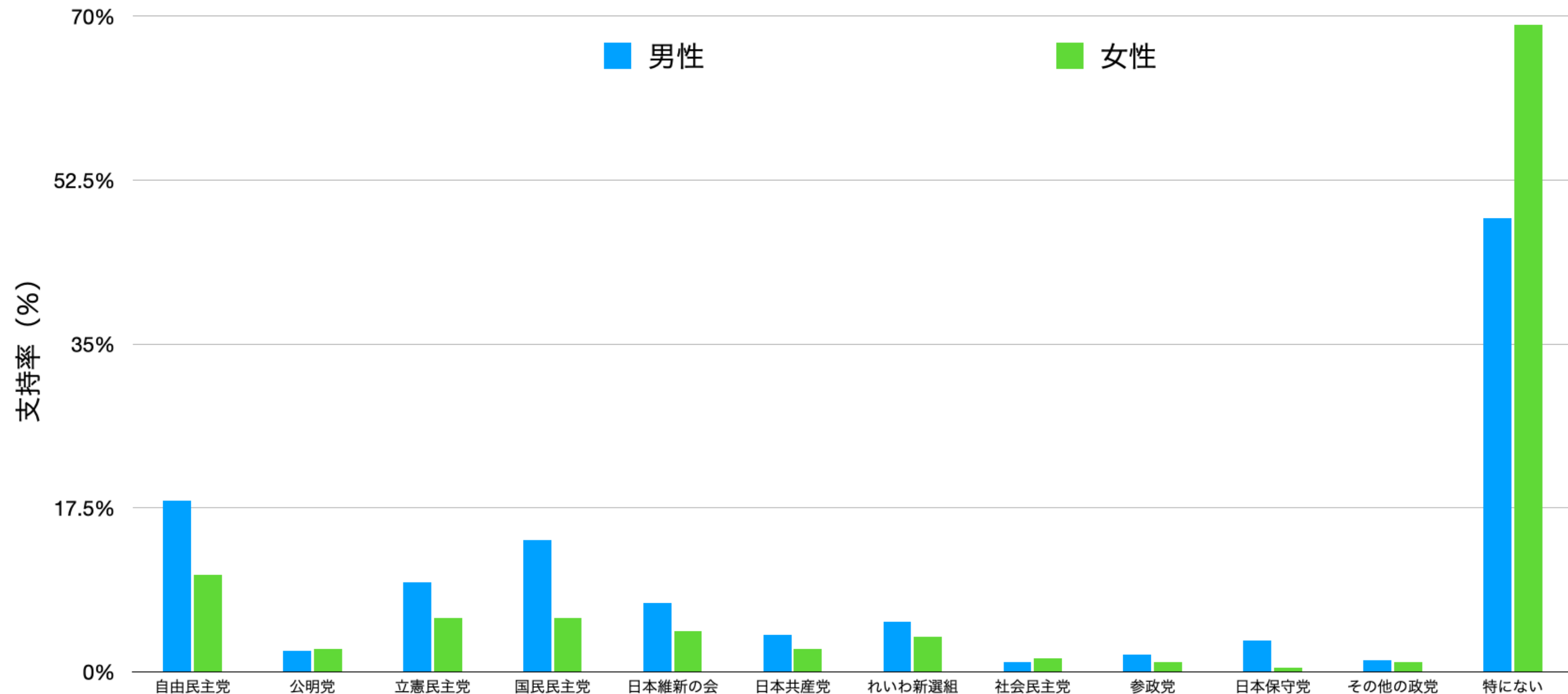
年代別の支持政党

- 自民・立憲民主党ともに高齢層ほど支持率が高く、特に自民党支持は70歳以上が突出して多い
- 一方、国民民主党は若年層に人気



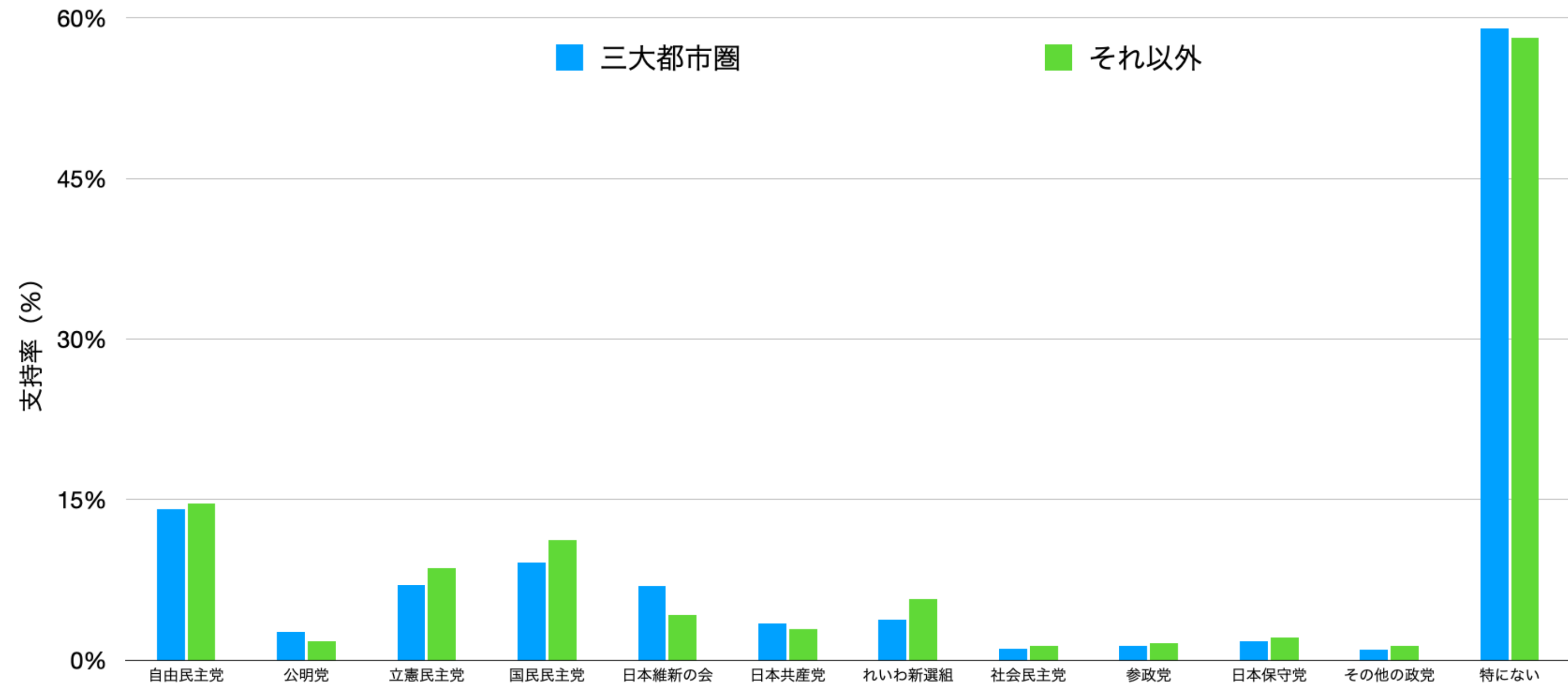
性別の支持政党

- 男性の方が女性よりも支持政党を有している割合が高い
- 自民党、国民民主党、日本保守党は特に男女の支持率の乖離が大きい



地域別の支持政党

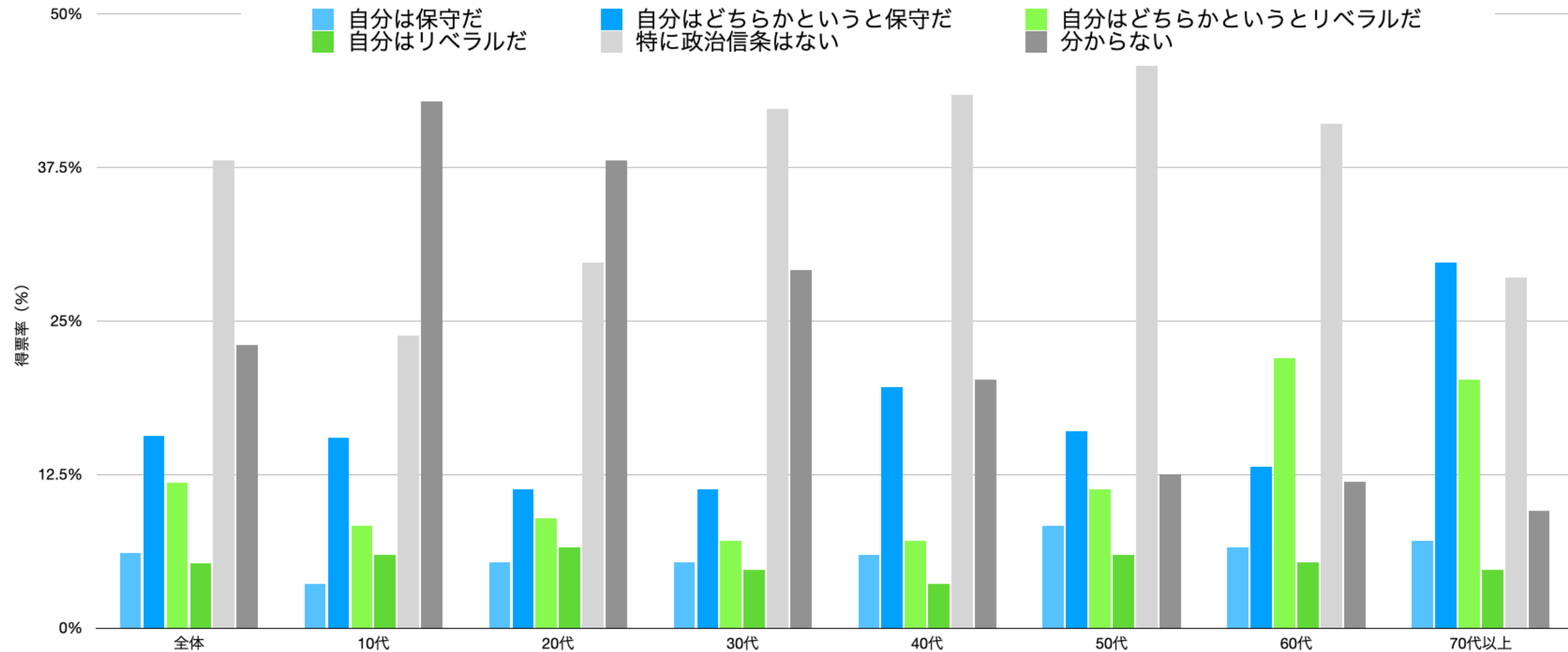
- 3大都市圏からの支持率が高いのは日本維新の会。逆に、地方圏からの支持率が高いのはれいわ新撰組
- 国民民主党は地方圏の方が支持率が高い



3.投票傾向

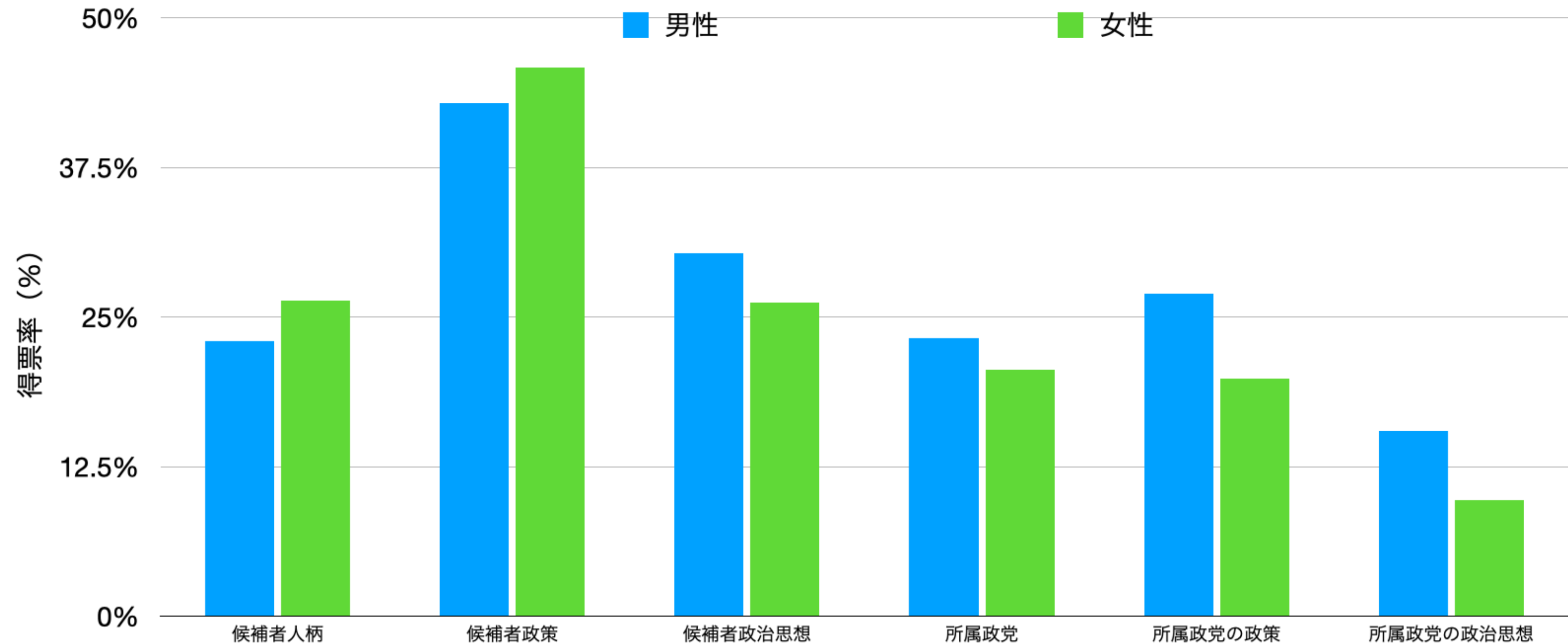
年齢別・政治信条に関する自己認識

- 多くの方は、自分自身の政治信条について「ない」「分からない」と回答
- 特に70歳以上は、自分を保守寄りだと分類している人が多い



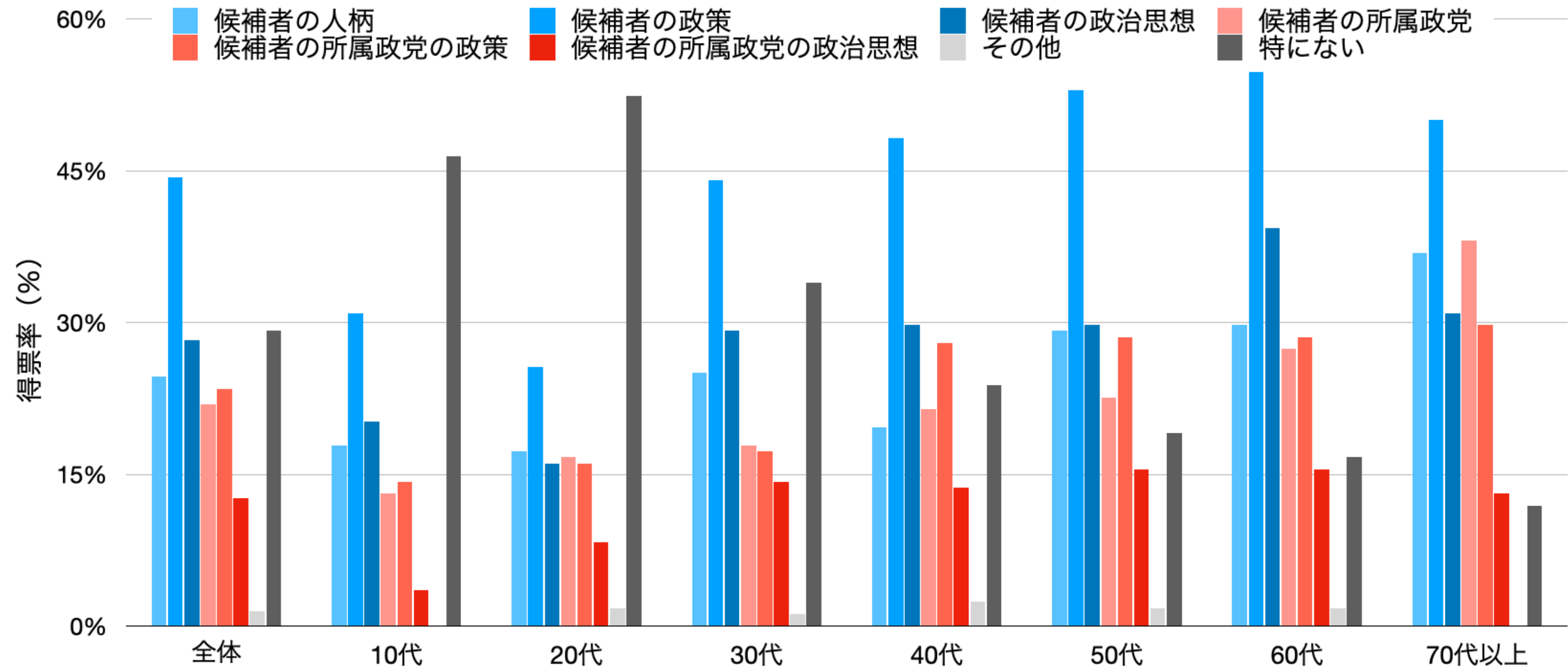
性別・投票において重視する項目

- 女性は男性よりも候補者に関する属性を重視している一方、男性は女性よりも所属政党に関する属性を重視



年代別・投票において重視する項目

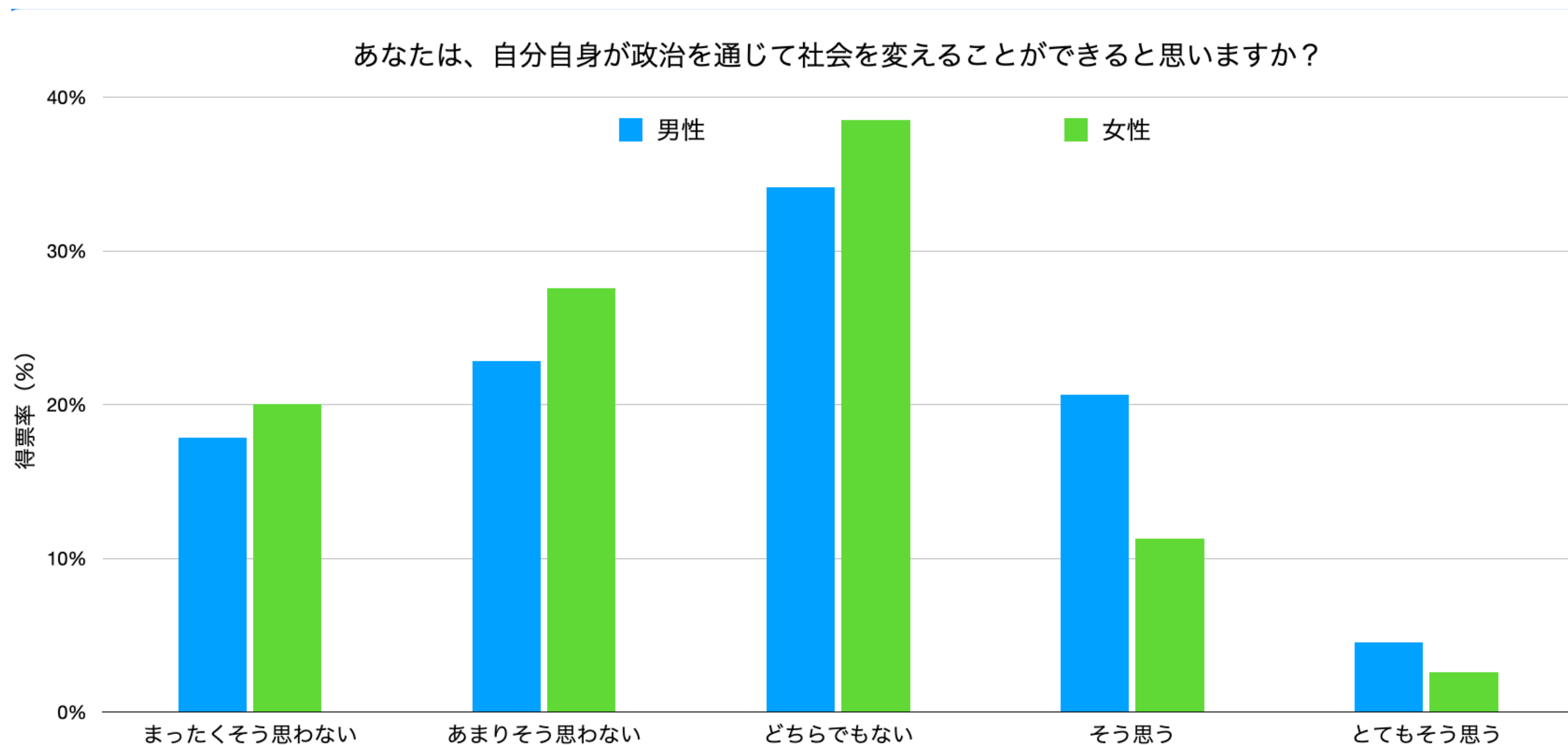
- 候補者に関する項目は政党に関する項目より重視
- 候補者に関する項目の中では、候補者の政策がもっとも重視



4.政治に関する認識

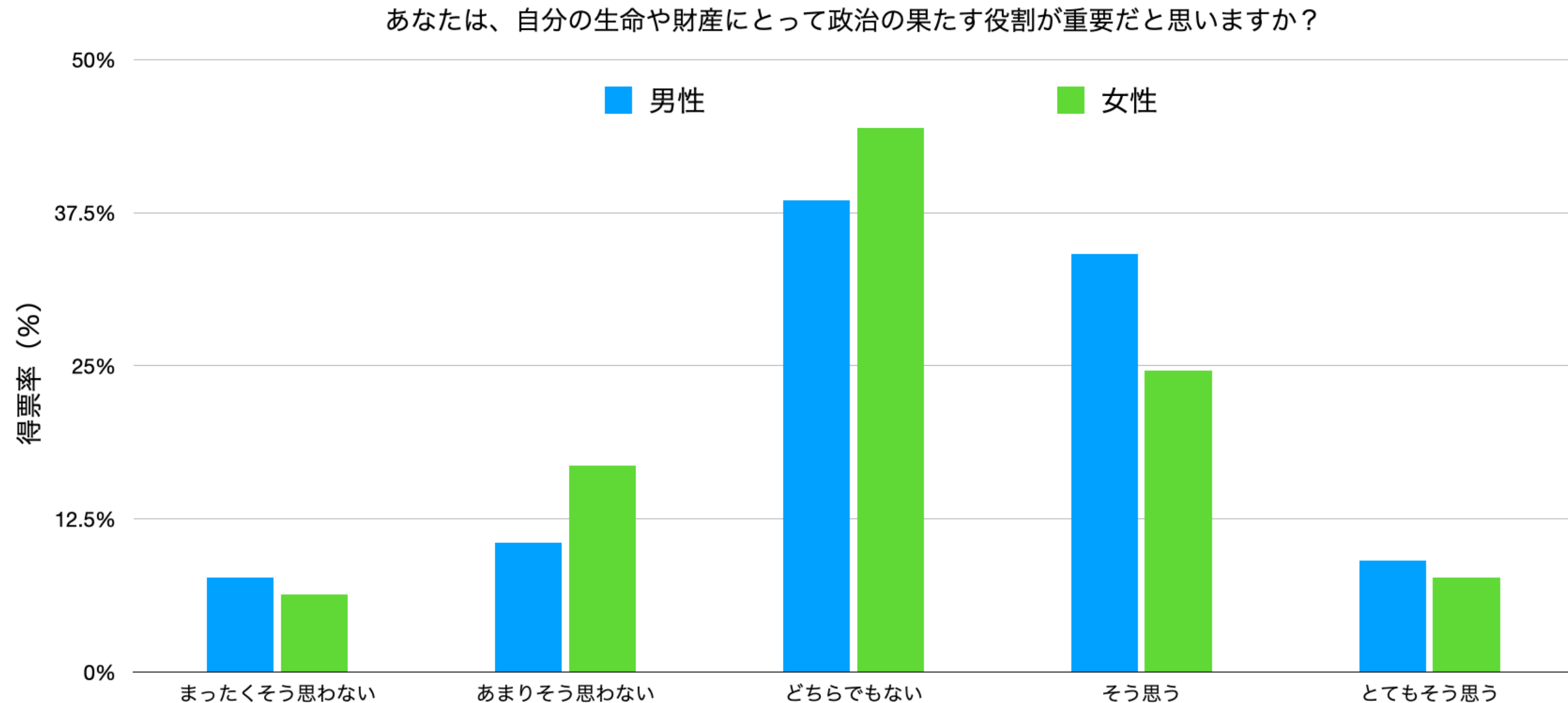
性別・政治を通じた社会変革の可能性

- 男性の方が女性よりも「政治を通じて社会を変えることができる」と思っている



性別・政治の役割の重要性

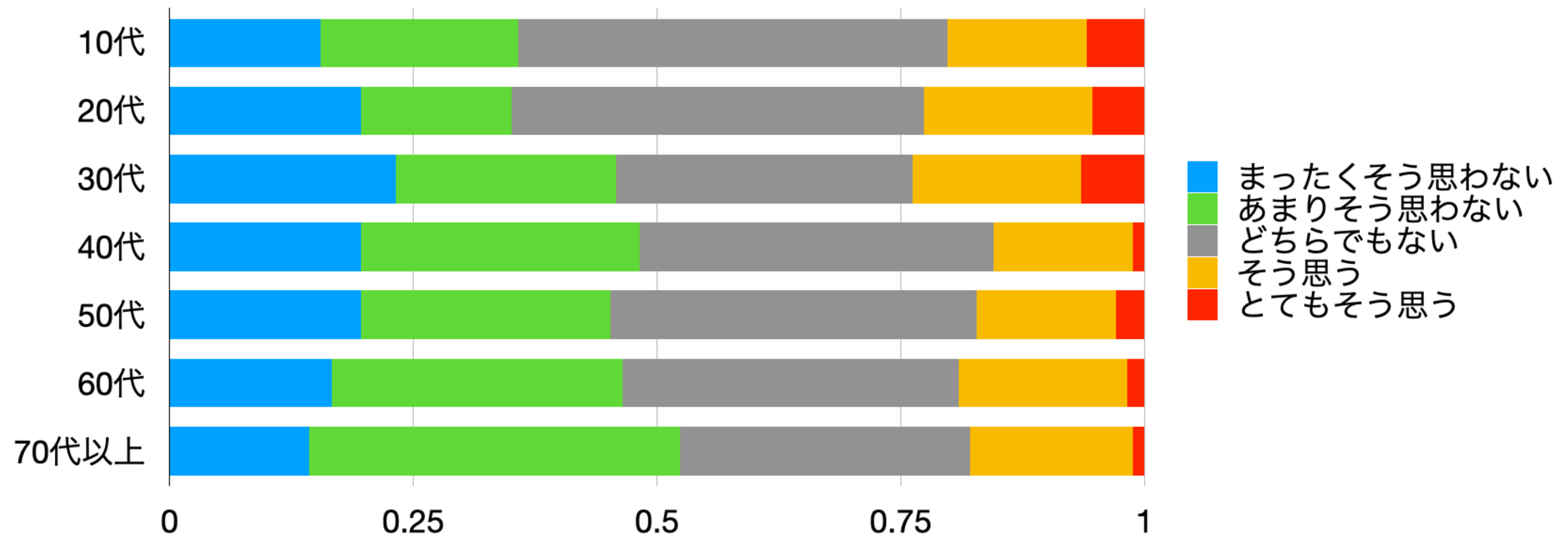
- 男性の方が女性よりも「自分の生命や財産にとって政治の果たす役割が重要」だと思っている



年代別・政治を通じた社会変革の可能性

- 政治を通じて社会変革ができないと考える人の割合は、年齢が上がるにつれて緩やかに高い

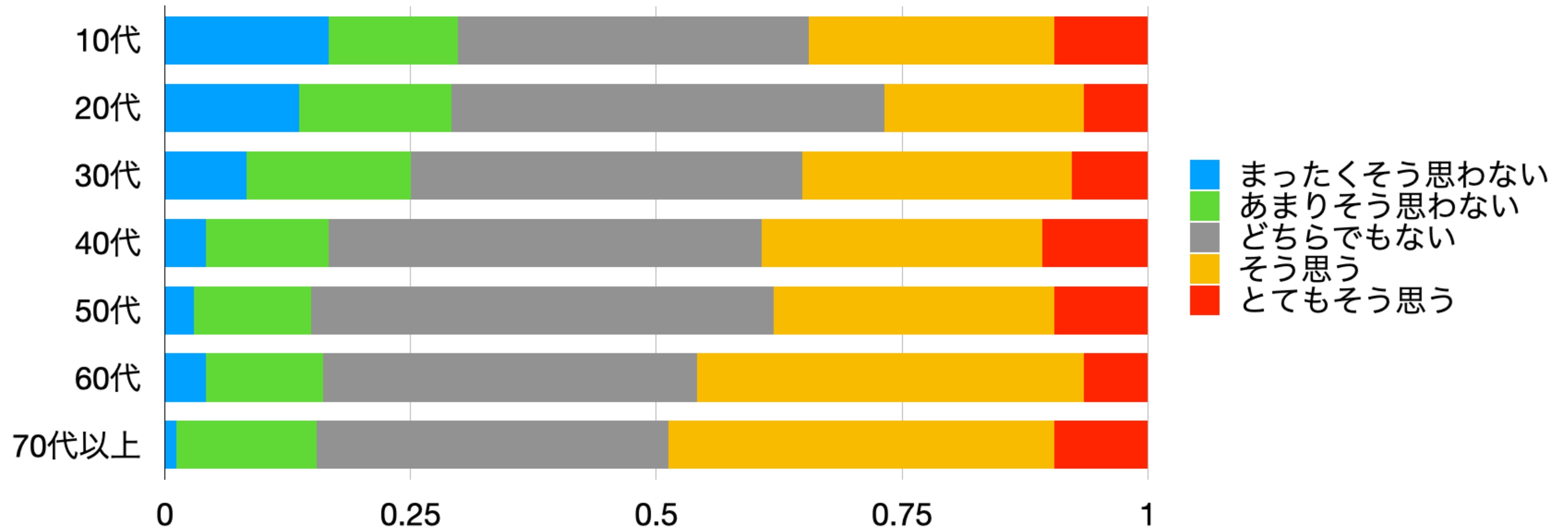
あなたは、自分自身が政治を通じて社会を変えることができますか？



年代別・政治の役割の重要性

- 年代が高ければ高いほど、自分の生命や財産にとって政治の果たす役割が重要だと思っている

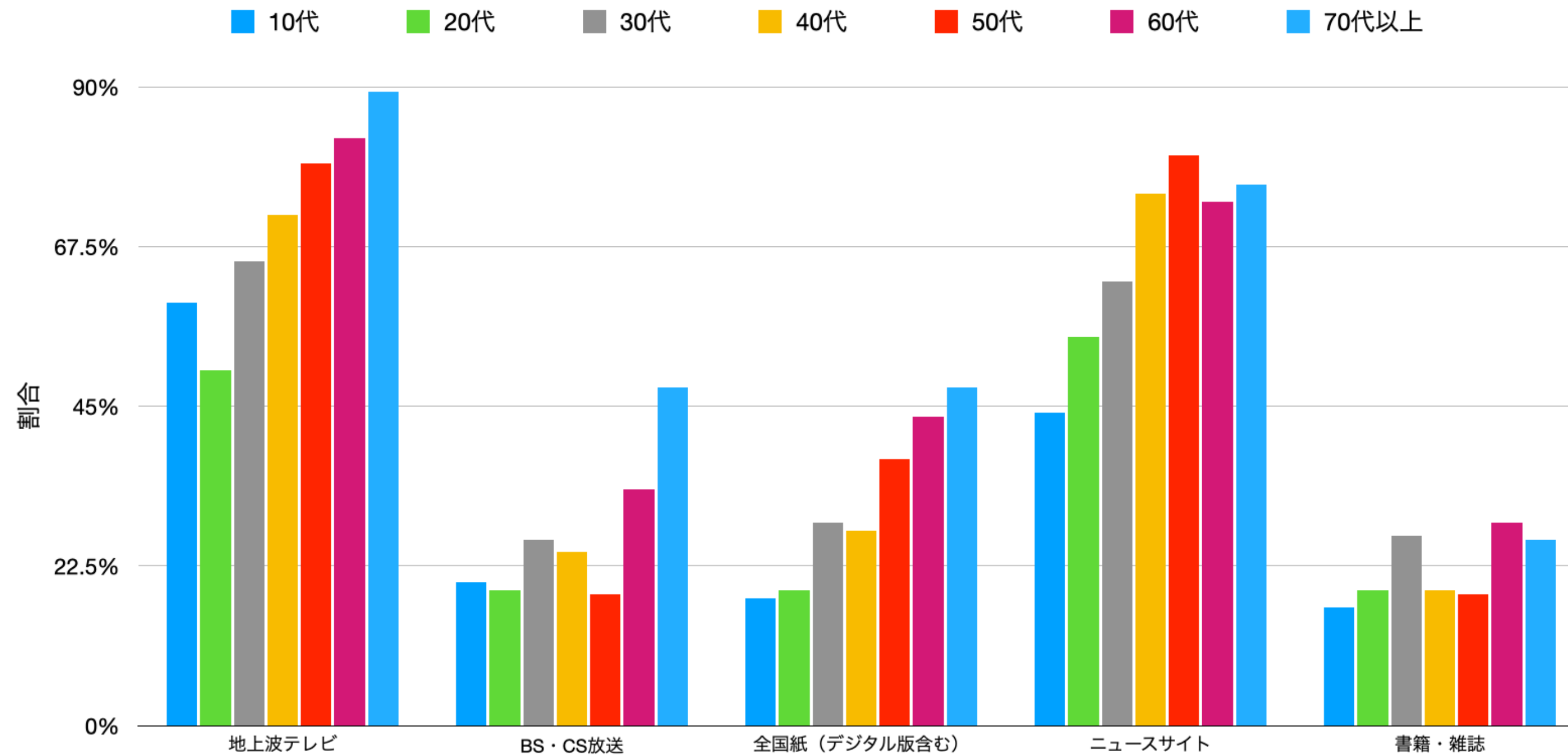
あなたは、自分の生命や財産にとって政治の果たす役割が重要だと思いますか？



5.メディア利用の実態

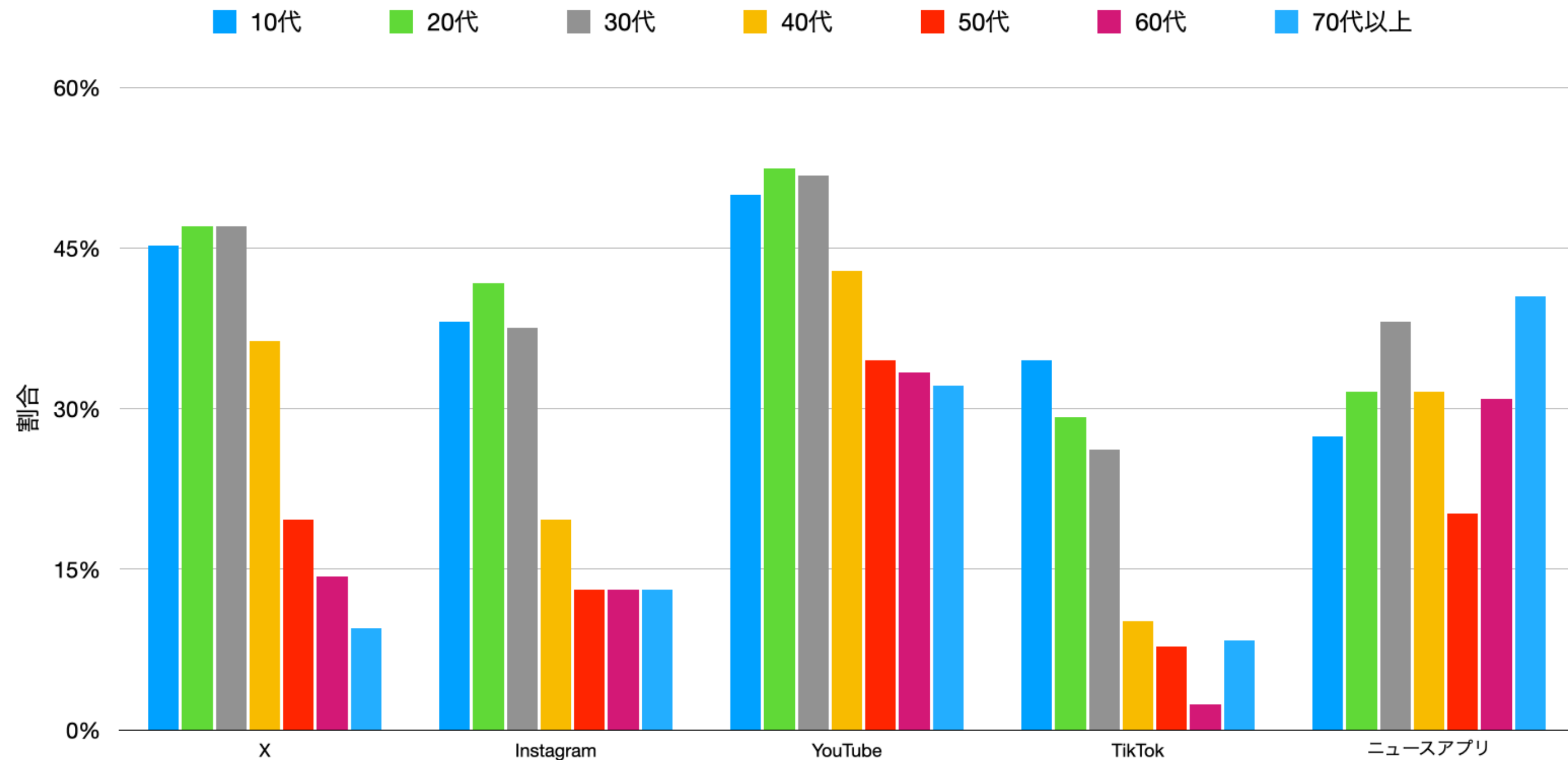
年代別・メディア利用

- 地上波メディアの影響力は依然として広い世代にわたって強い



年代別・メディア利用

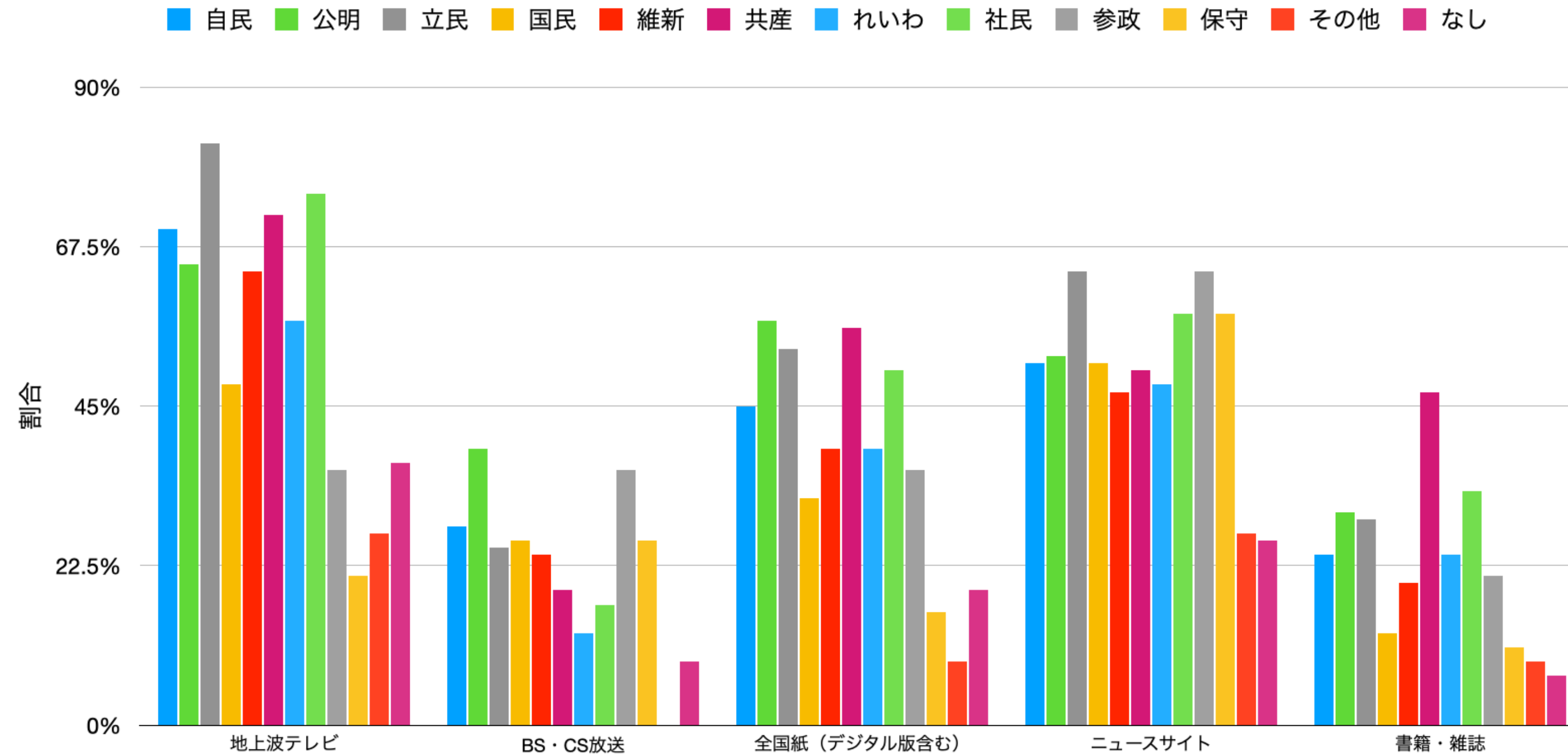
- 地上波メディアの影響力は依然として広い世代にわたって強い



6. 支持政党とメディア

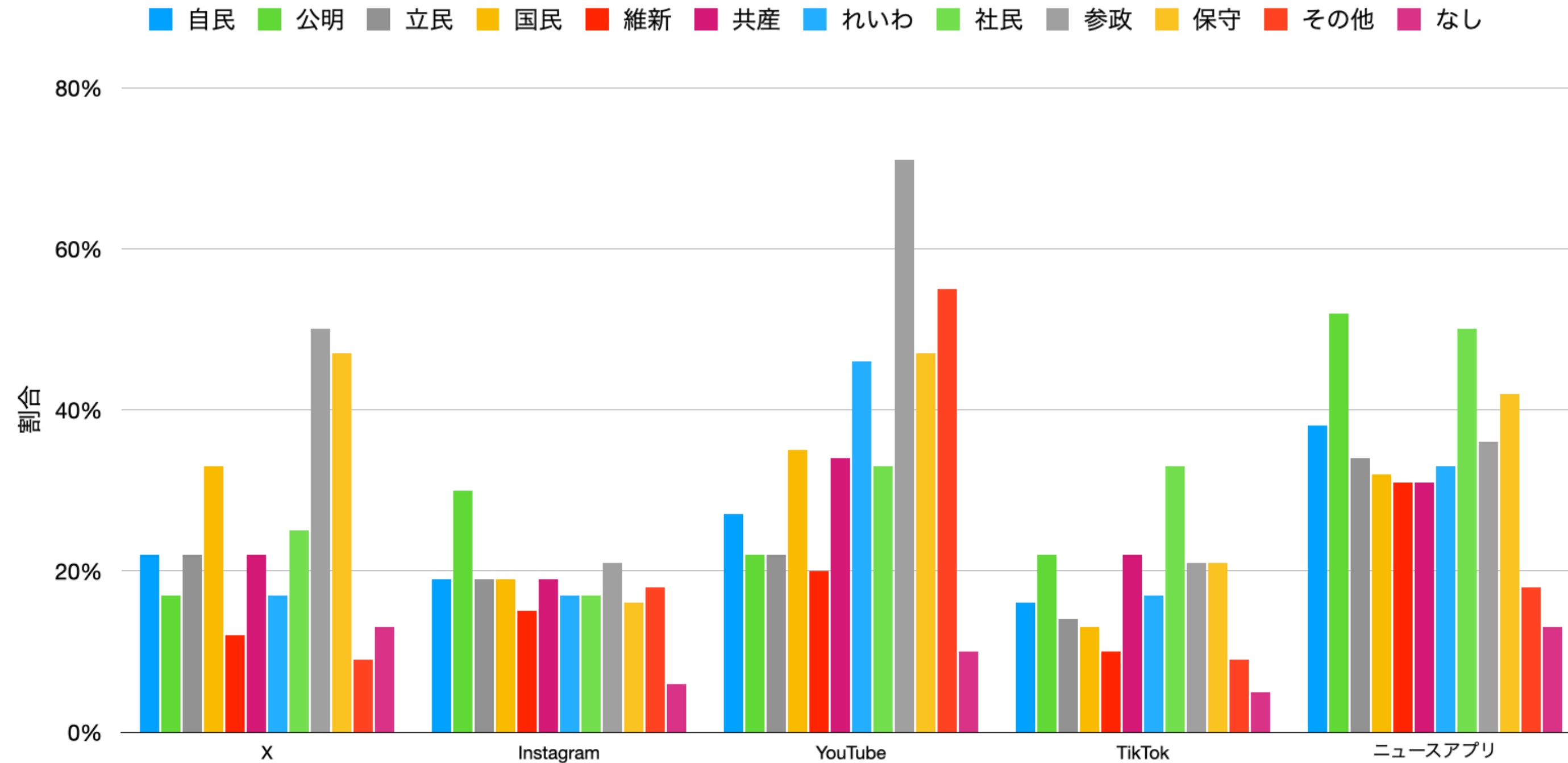
支持政党別・メディア利用

- 地上波メディアの影響力は党派を問わず強い



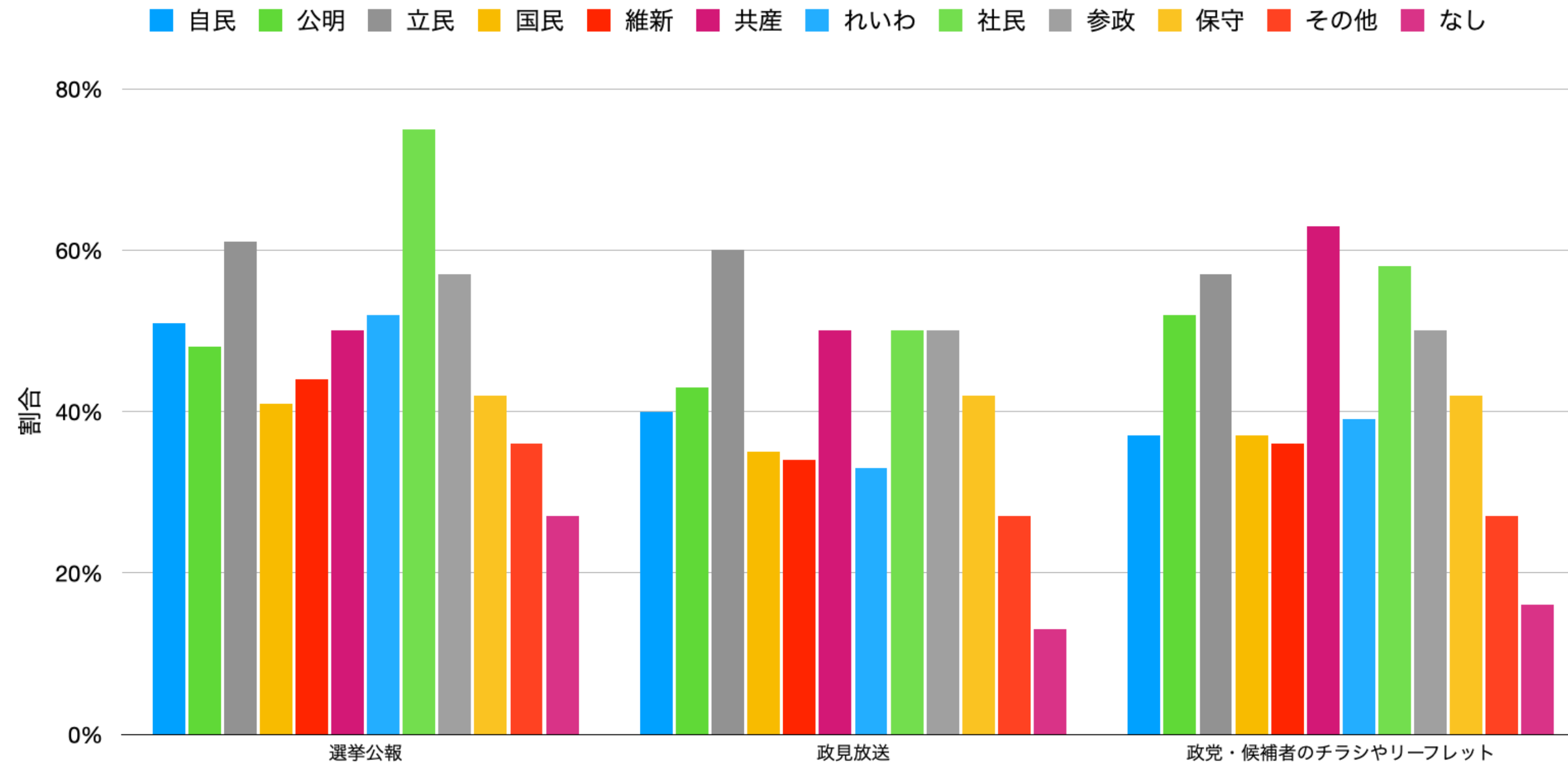
支持政党別・メディア利用

- 新興政党支持者にXやYouTubeの利用が目立つ



支持政党別・メディア利用

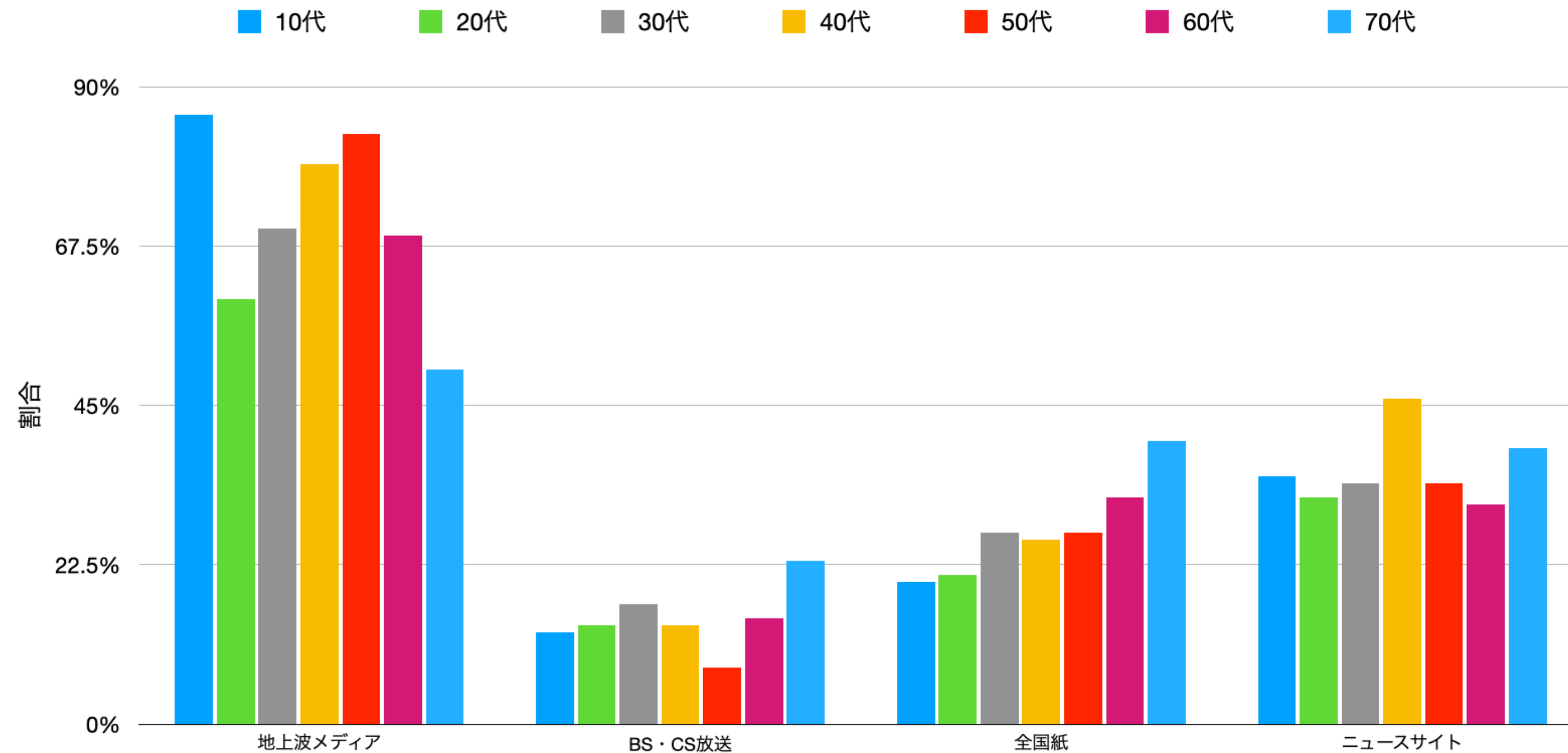
- 支持政党の有無で選挙公報や政見放送の参照有無に違いが出る



7.投票時に参考にしたメディア

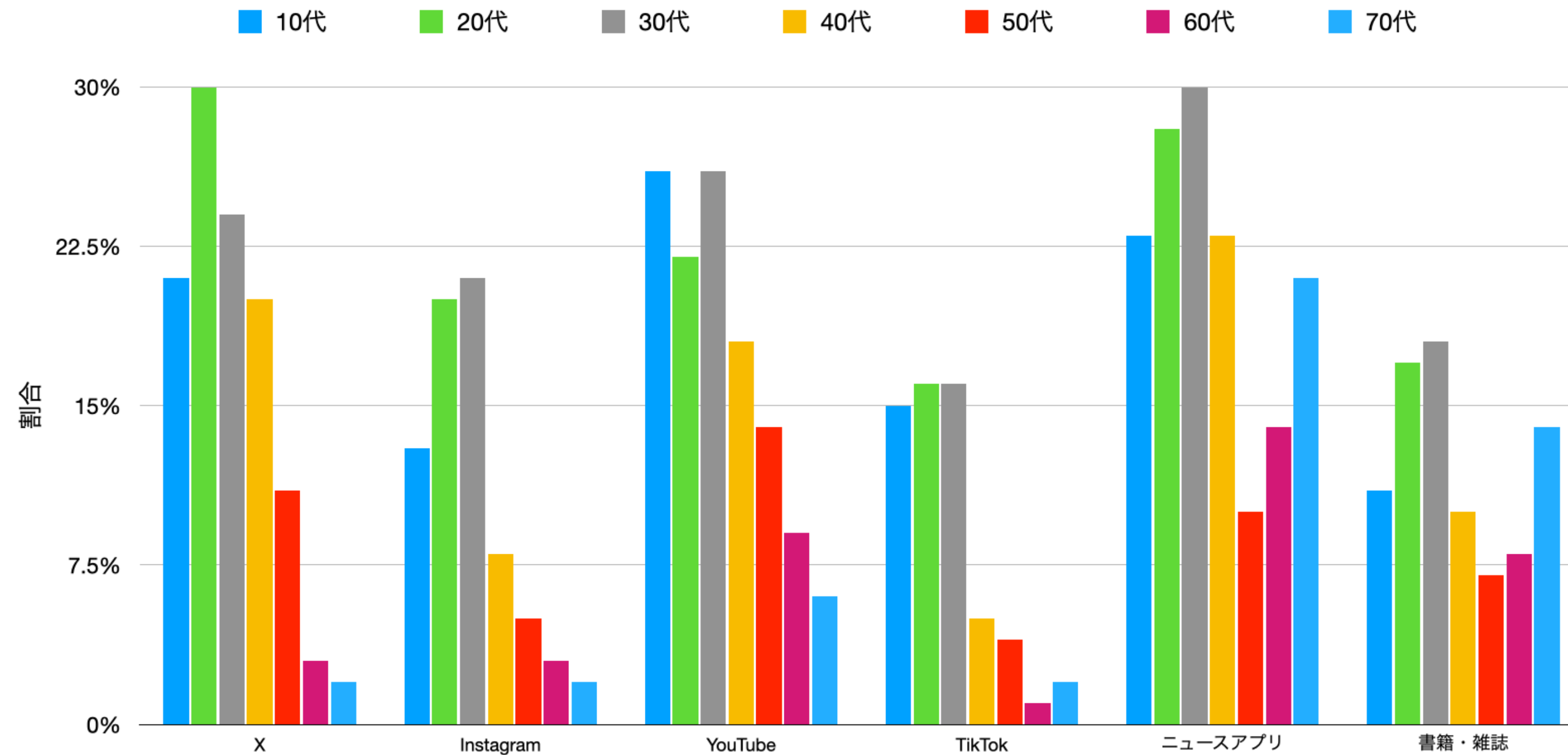
年代別・投票時に参考にしたメディア

- 地上波メディアの参照割合が群を抜いて高い
- 一方、新聞の参照割合はニュースサイトと同等かそれ以下に



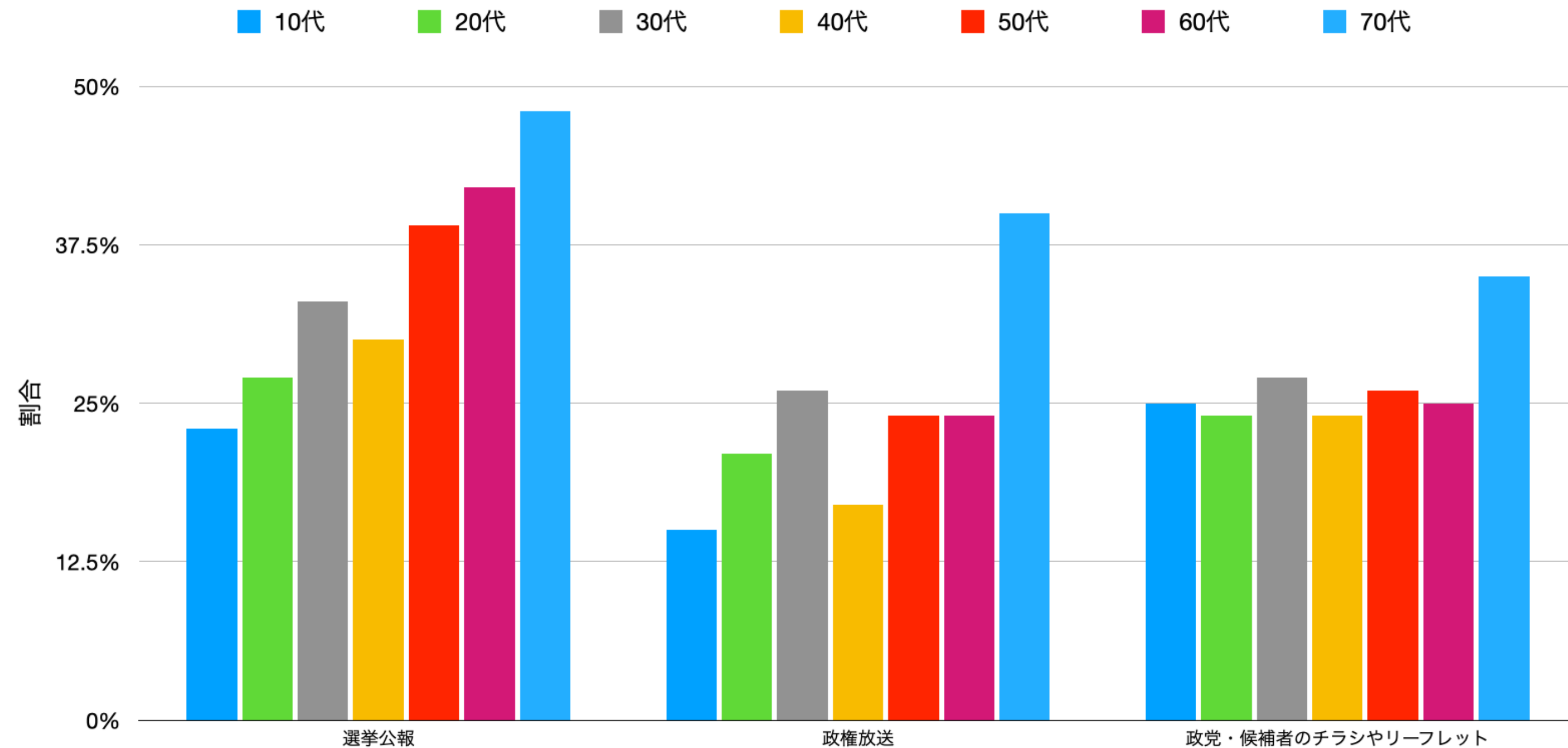
年代別・投票時に参考にしたメディア

- SNSの利用は全体的に低い傾向にあるがYouTubeは比較的幅広く参照されている



年代別・投票時に参考にしたメディア

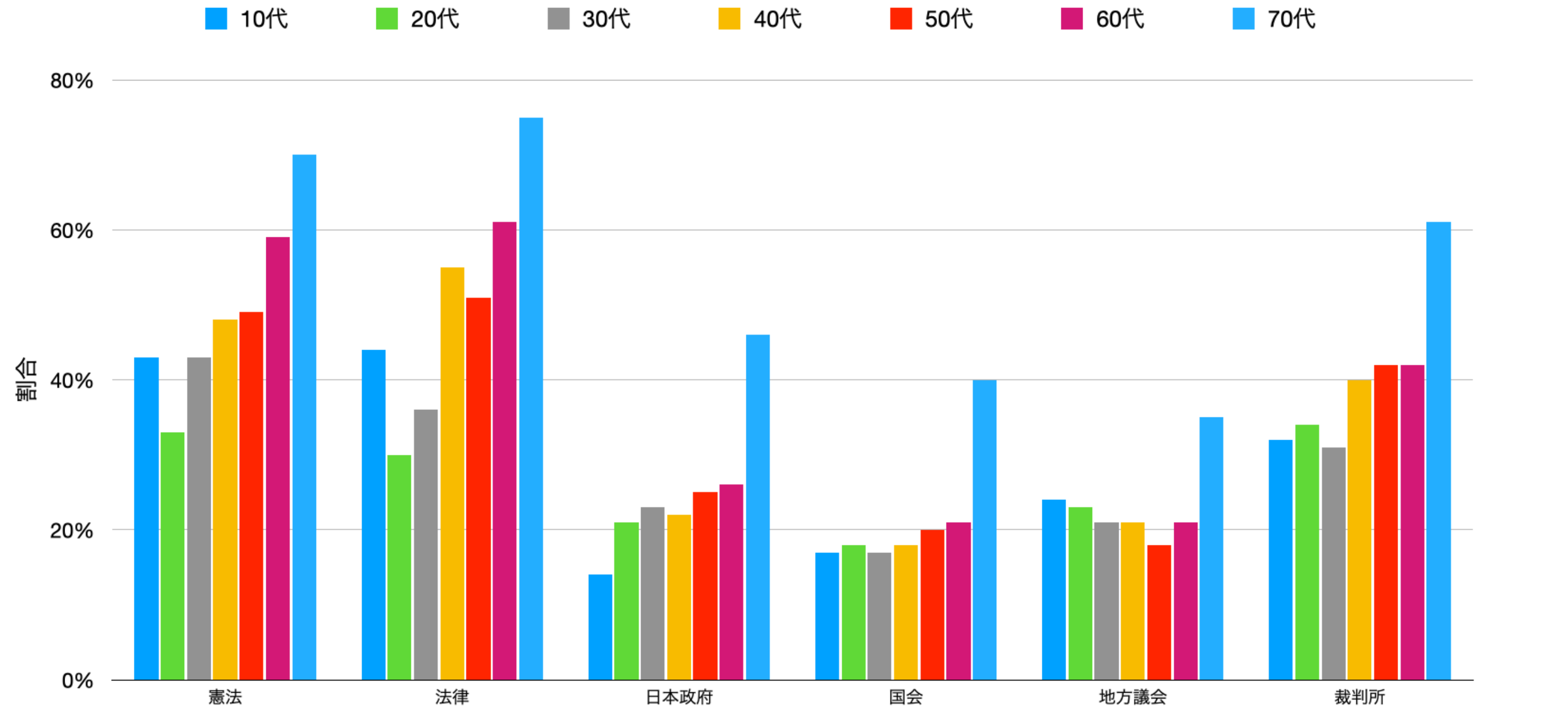
- 選挙公報で年代による差異が目立つが、全体的にあまり参照されていない



8. 制度信頼度

世代別・制度信頼度

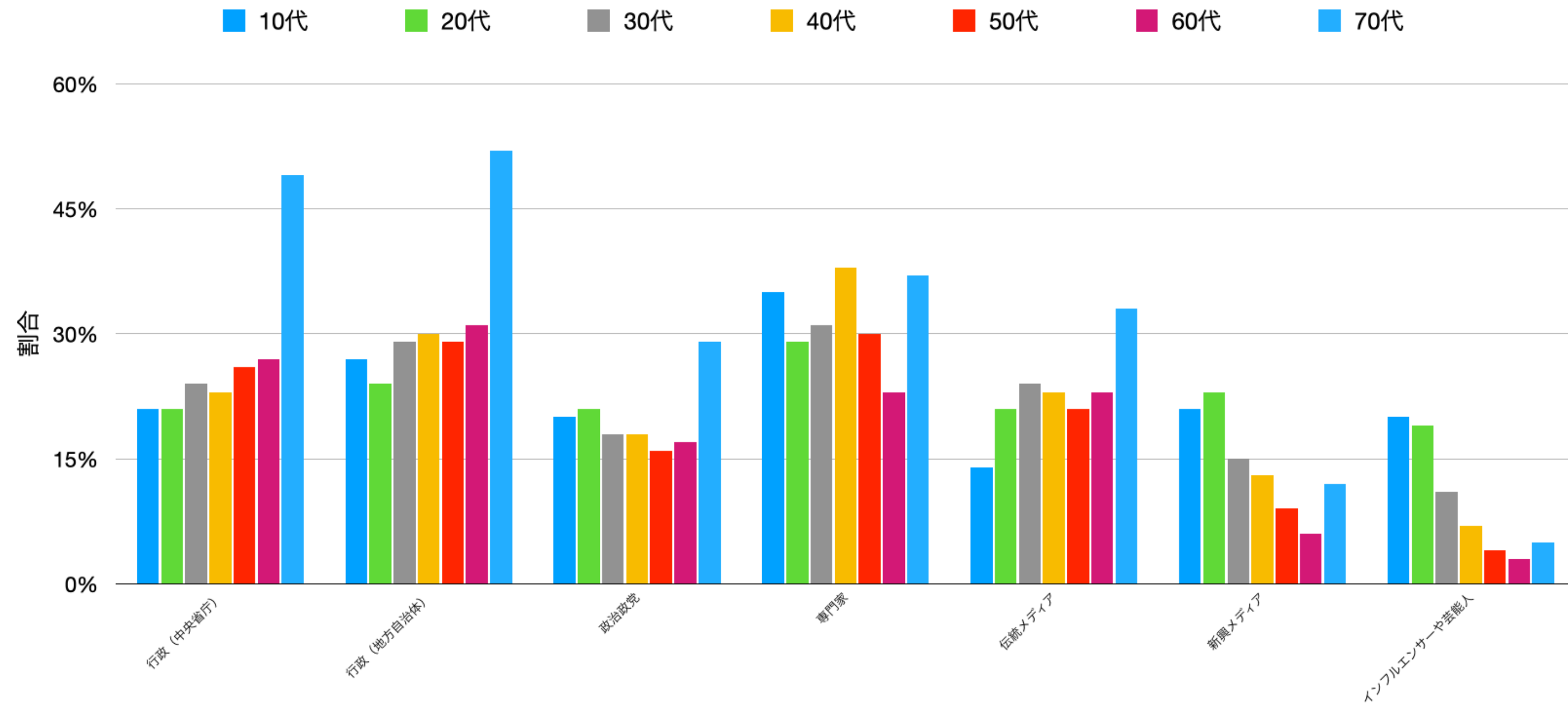
- 憲法や法への信頼は世代を通して高い一方、政府・議会が低い傾向



※「あなたは、以下にあげる項目などを、どの程度信頼していますか？」に対する回答割合

世代別・制度信頼度

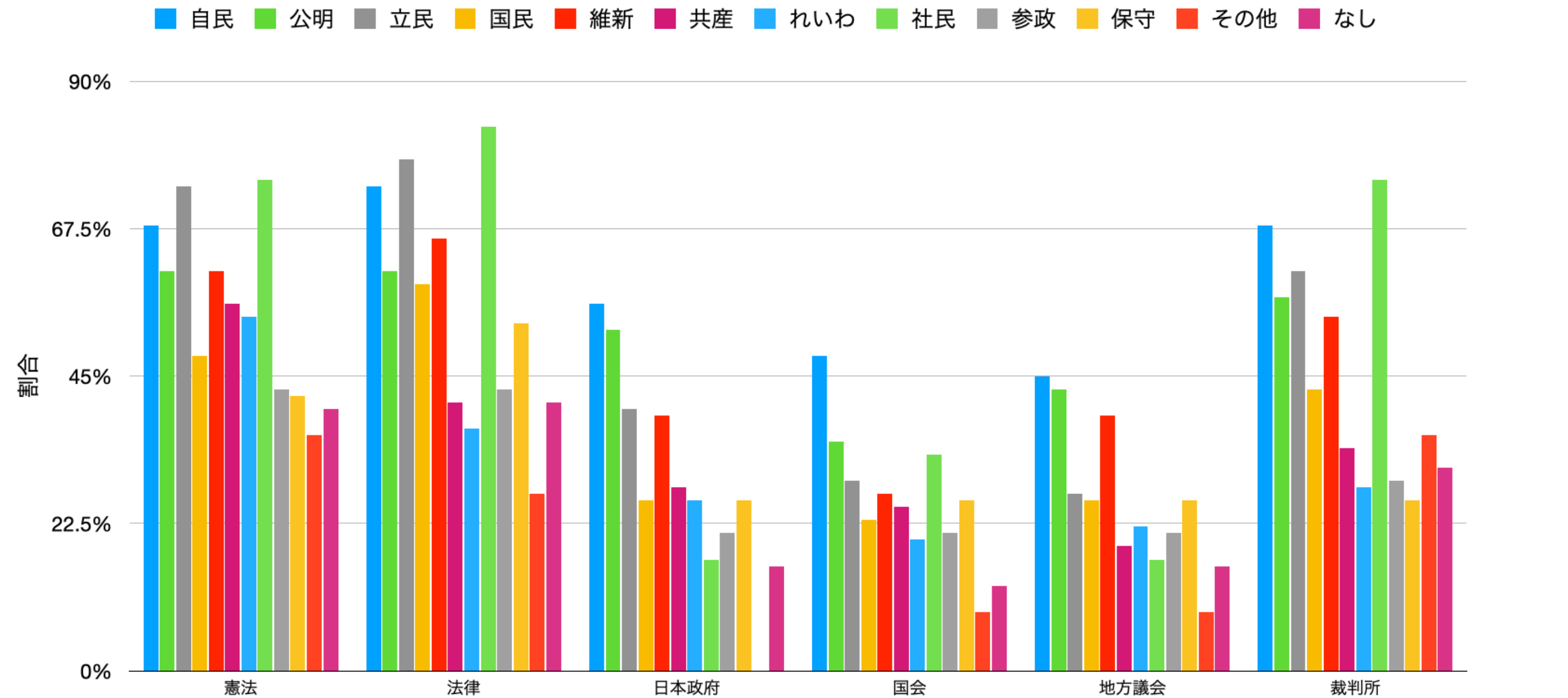
- 動画メディア・インフルエンサー等への信頼度はいずれの年代でも低い



※「あなたは、以下にあげる項目などを、どの程度信頼していますか？」に対する回答割合

政党支持別・制度信頼度

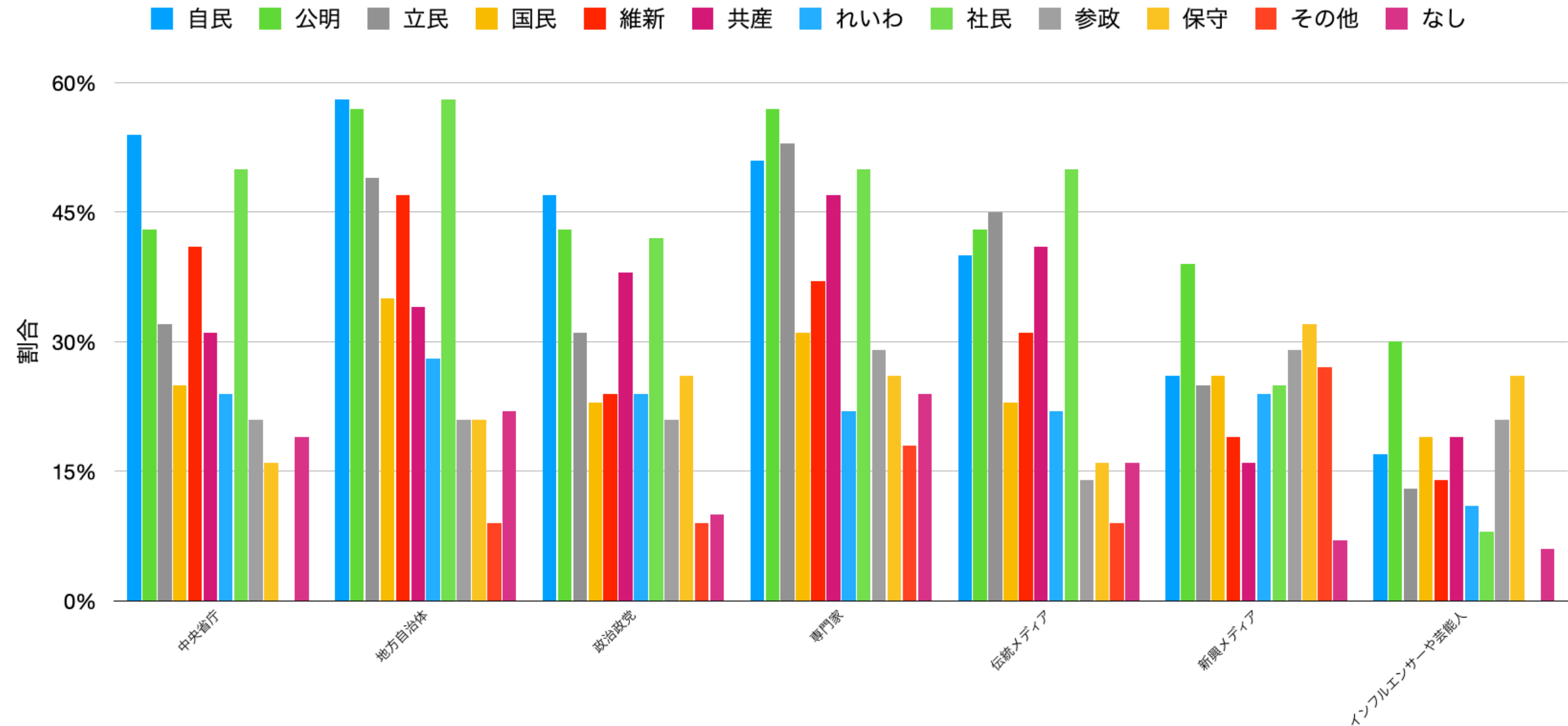
- 憲法・法律への信頼度は高い一方、国会・議会への信頼度は低い



※「あなたは、以下にあげる項目などを、どの程度信頼していますか？」に対する回答割合

政党支持別・制度信頼度

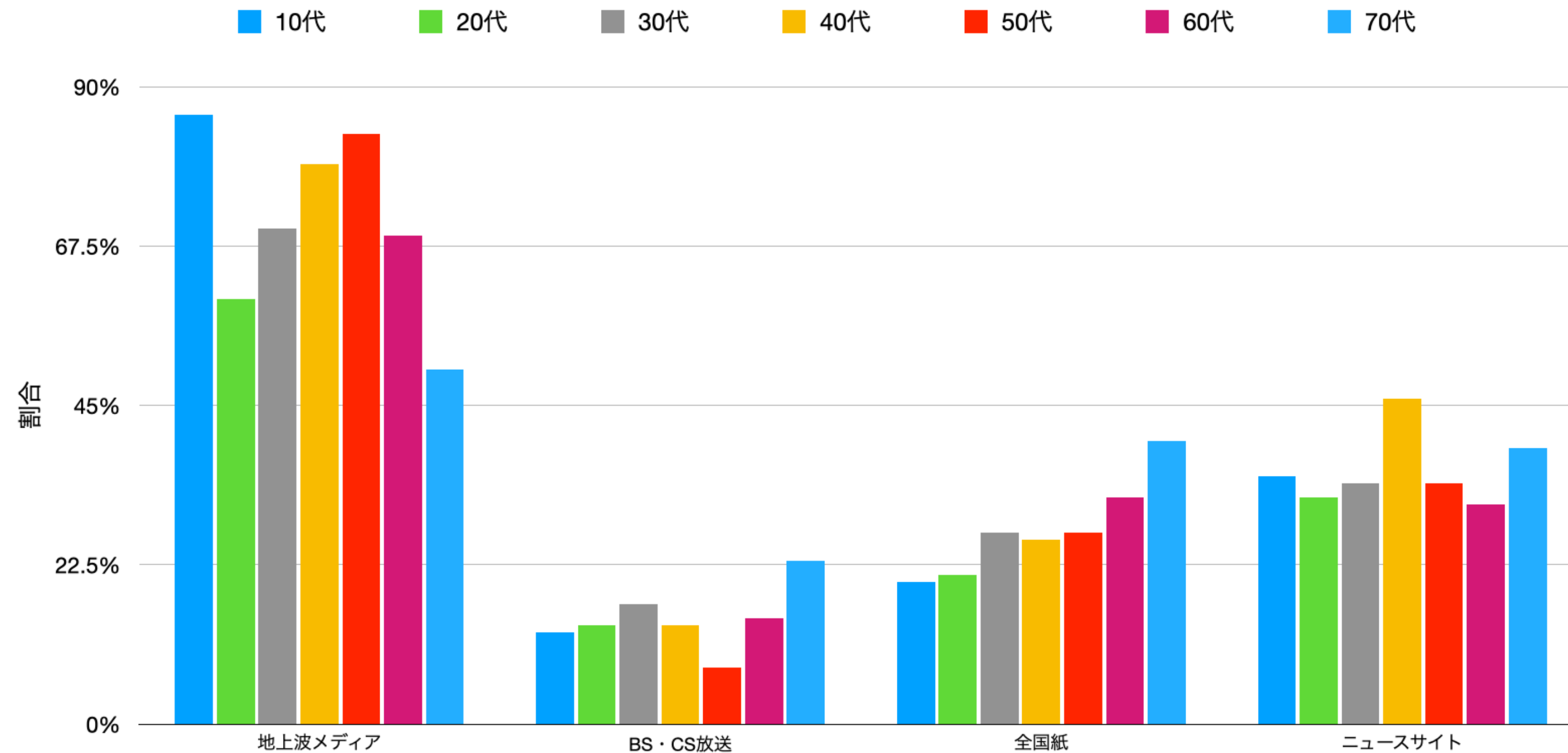
• 動画メディア・インフルエンサー等への信頼度は相対的に低い



※「あなたは、以下にあげる項目などを、どの程度信頼していますか？」に対する回答割合

年代別・投票時に参考にしたメディア

- 地上波メディアの参照割合が群を抜いて高い
- 一方、新聞の参照割合はニュースサイトと同等かそれ以下に



おわりに

2025年には再び、私たちの一票が国のかたちを左右する重要な選挙が控えている。変化の必要性が叫ばれる一方で、何をどう変えるべきかについては、いまだ社会全体の合意が得られていない。こうした中で問われるべきは、政治や制度に対する「批判」そのものではなく、どのような未来を私たち自身が望み、選び取ろうとしているのかという主体的なビジョンである。

制度を信頼しつつも閉塞感を抱える現在の有権者の姿は、成熟と疲弊が交差する時代の鏡ともいえるだろう。だからこそ今、私たち一人ひとりが「政治に何を求めるのか」「自らが何に加担し、どのような未来をつくりたいのか」を問い直す必要がある。

選挙とは制度を作る制度である。変化を恐れることなく、しかし性急に飛びつくのでもなく、私たちの一票がどのような社会の姿につながるのかを想像しながら、2025年の選挙に臨みたい。

参考：調査概要

調査名称：
「政治意識・投票行動に関する調査」

調査実施期間：
2025年1月23日

調査手法：
インターネット調査（Webアンケート方式）

調査対象：
日本国内在住の満18歳以上の男女

サンプル数：
n=1,008（有効回答）

サンプリング方法：
調査パネルより年代・性別等で割り付け回収

設問数：
全11問（選択式＋自由記述含む）

調査機関（実施主体）：
一般社団法人Public Meets Innovation
※インターネット調査会社の協力を得て実施

データ集計・分析方法：
単純集計およびクロス集計